

令和6年度 総合的な学習の時間 全体計画 江戸川区立新田小学校

学校の教育目標	都及び区の教育目標や基本方針を受け、新田小学校の児童としての自覚と誇りをもち、人間尊重の精神に基づき、国際的な広い視野と規範意識をもった、心身ともに健康で、自ら学ぶ意欲のある児童を育てるために次の目標を定める ・よく考える子 ・思いやりのある子 ・体をきたえる子
---------	--

国が示す総合的な学習の時間の目標
探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究的な学習過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習の良さを理解するようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の総合的な学習の時間の目標
1各教科、道徳、特別活動のねらいと、総合的な学習の時間のねらいを関連づけながら、横断的・総合的な学習活動を推進する 2自ら価値ある課題を見つけ、探究的な見方・考え方を働かせ、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる 3課題に対して見通しをもって調べ、必要な情報を収集・整理・分析し、理解した内容や自分の考えを表現できるようにする 4問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、他者と協同して問題を解決しようとする力を育てる 5学んだことを自分の生活に生かしたり、自分自身の生活を振り返り自己の生き方について考えたりすることができるようにする

育てようとする資質や能力及び態度	
〈学習方法に関すること〉	
第3・4学年	第5・6学年
・自分で課題を選び、目的にあった方法で情報を収集する ・調べた情報から伝えることを明確にし、分かりやすく伝える	・自ら課題を見だし、多様な方法で情報を収集・比較・分類・選択しながら、計画的に課題を追求する ・伝える内容や、伝える相手に合わせて効果的に表現する
〈自分自身に関すること〉	
第3・4学年	第5・6学年
・自分の思いや考えをもつ ・自分自身の成長に気づき、学んだことを生活に生かす	・学習の成果や課題をつかみ、次の課題や自分の生活へとつなげる ・自分の生活を見つめ、将来の夢や希望をもつ
〈他者や社会とのかかわりに関すること〉	
第3・4学年	第5・6学年
・他者と協同して活動し、課題を解決する ・自分と異なる意見のよさを見だし、受け入れる	・他者に配慮しながら積極的に協同して活動し、課題を解決する ・自分と社会との関わりに興味・感心を持ち、積極的に働きかける

内 容	学習対象	学習事項
第3学年	・大豆や小松菜などの食料生産体験と調べ学習 ・地域にある老人ホームとの交流 ・海の生き物について調べ学習	・大豆・小松菜などの食料生産の歴史と江戸川区における取り組み ・地域の高齢者との交流活動 ・地域の施設を使って海の生き物を調べる活動
第4学年	・お年寄りや障害のある方にとって住みやすいまちについて考える。 ・地域の安全について ・自分の成長過程に関わる人々と心身の変化	・自分の地域の福祉に関する現状について調べ、よりよくしようとする。 ・地域の安全な所、危険な所を調べ、安全マップを作る。 ・成長に伴う10年間の変化とそれを援助した周囲の人々の思い・今後の成長への展望と希望
第5学年	・米作りを始めとする様々な食料生産体験と課題を設定しての調べ学習 ・身近な生活環境とそこに起きている環境問題 ・雪国の暮らし	・江戸川区や日本の食料生産と食文化の特徴や歴史 ・環境問題と自分たちの生活との関わり・環境の保全やよりよい環境の創造のための取り組み ・雪国の暮らしについて調べ、関心をもつ。
第6学年	・自身のこれまでの成長と将来への展望 ・地域にある老人ホームとの交流とそこで働く人々 ・地域の一員として地域行事への参加	・様々な職業とそこで働く人について知り、自分の視野を広げたり、考え方を深めたりしながら、自己実現を目指す・積極的に地域の行事に参加し、地域の伝統を受け継ぎ、地域の一員としてよりよく生きる

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
・3年生は食料生産、4年生は福祉、5年生は環境、6年生は地域、自分を主なテーマとする ・地域を学び、地域で学ぶ学習活動を柱とする。	・地域の生活や社会との関わりのある、魅力的な教材の開発 ・体験的な学習活動の場面の効果的な設定 ・協働的な学習活動の充実 ・教科との関連を図った横断的な指導の重視	・地域の人材等の活用 ・ICT教室の整備・充実と活用 ・近隣諸機関との連携 ・個人やグループ、異学年集団など、多様な学習形態に応じた指導体制の工夫	・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定 ・自己評価や相互評価の工夫 ・ポートフォリオを活用した評価の充実 ・支援のための評価の重視 ・多様かつ継続的な評価